

|    |                              |   |
|----|------------------------------|---|
| 目次 | 〈特集・品種 最新情報〉 水稻新品種の特性…………… 1 | 〈試験研究の現場から〉 作物のバイオ技術 その2 …… 11              |
|    | 主要畑作物の新しい品種紹介 …… 2           | 〈酪農畜産コーナー〉 自給飼料の効率利用による経営安定 …… 12           |
|    | 花きの消費・市場動向 …… 4              | 〈技術セミナー〉 被覆肥料の活用で良質野菜の<br>低コスト安定生産を…………… 14 |
|    | 品種からみた北海道野菜の作付動向 …… 6        | 被覆資材の種類と特性 …… 15                            |
|    | 野菜・花きの注目品種の特徴 …… 8           | 〈新製品トピックス〉・お知らせ・編集後記                        |
|    | 緑肥作物 注目の新品種…………… 10          |   |

## 特集「品種 最新情報」

品種の改良は農業技術開発の中心とされ、毎年多くの新しい品種が登録されている。こうした新しい品種は、様々なほ場条件や気象条件の中で実際に栽培してみると、当初気がつかなかった性質が見えてくる場合もある。言うまでもなく、品種の持つ特性を十分理解することが品種選択のポイントである。ここでは、最近発表された品種の中から、生産者の関心が高いと思われるものについて、今年の異常な天候での経験も含めて紹介する。

## 水稻新品種の特性 「ほしのゆめ(上育418号)」と「空育150号」

道立中央農業試験場 稲作部長 竹川 昌和

食味は試験場の成績では、「ほしのゆめ」は「きらら397」に優り「あきたこまち」に近い“上の下”、また、「空育150号」は「きらら397」並みの“中の上”とされているが、本格的には平成8年産米についての米取扱業者による評価をお願いしているのでこれを重視していく必要がある。その他の特徴を以下に示す。

### \*来歴(交配母本)

「ほしのゆめ」:「あきたこまち」/「道北48号」//「上育397号(きらら397)」

「空育150号」:「上育394号」/「空育133号」

### \*熟期

品種選定にとって熟期の評価は最も重要な特性の一つである。

### 1. はじめに

「米自由化」の流れが加速して、お米も商品としての実力が試されるという、まさに戦国時代に突入した。平成7年産までの売り込みは「きらら397」を看板として展開され、平成5年冷害の後遺症も平成6年の高温による良質米生産に救われて克服し、好調に推移してきた。加えて、「ゆきひかり」や「ゆきまる」の評判も良好であった。しかし、平成7年産の「きらら397」は前年産に比較し品質、食味が落ち込み、流通上の評価はかなり厳しかった。

平成8年は生育遅延と一部の不稔粒発生によって収量、品質の評価が気になっていたが、概ね平年作を期待できるところまで漕ぎ付けた。本年度は輸入米の増加や全国的には平年作を上回る作柄のため、新たな備蓄米の大量発生が懸念されている。

そのため、ここで取り上げる2つの新品種の販売戦略が今後の道産米の発展を大きく左右するキーポイントとなる。基本的な目標は、この2品種によって「ゆきひかり」の全面置き換えと、「きらら397」の一部を置き換えることとした。

### 2. 新品種の特徴

新品種の位置づけについては、その特性の十分な把握と適応地域についての慎重な検討が極めて重要となる。そのポイントは、熟期、病害虫抵抗性、耐冷性、食味、品質などである。



平成8年9月10日の「ほしのゆめ」(奨決現地試験ほ)

両品種とも「ゆきひかり」、「きらら397」並みの“中生の早”で比較的早い方に属するが、「ほしのゆめ」は「空育150号」に比較して出穂期、成熟期ともやや遅く、地帯によっては「ゆきひかり」、「きらら397」に比較して出穂期、成熟期ともにやや遅くなるので注意が必要である。

「空育150号」は「ゆきひかり」、「きらら397」に比較して出穂期、成熟期とも早いが、空知南部以南では「ゆきひかり」並みとなることがある。

#### \* 病害虫抵抗性

葉いもち病抵抗性は「ほしのゆめ」が「きらら397」に劣り“中”、「空育150号」が「きらら397」並みの“やや強”、穂いもち病抵抗性も「ほしのゆめ」が“中”、「空育150号」が“やや強”である。

カメムシ被害などの品質劣化に関連する割れ糶の発生は「空育150号」は少ないが、「ほしのゆめ」では多いので注意が必要である。

#### \* 耐冷性

両品種とも耐冷性は「きらら397」より明らかに強く、「ゆきひかり」並みの“強”であるが、さらに「ほしのゆめ」は「空育150号」に比較してもやや優れる。稲作部にある冷害気象実験ドームにおいて本年も明瞭な結果が出ており再確認されている。

#### \* 耐倒伏性

「ほしのゆめ」は「ゆきひかり」にやや劣り“中～やや弱”、「空育150号」は「ゆきひかり」並みの“中”である。

#### \* 収量、品質

玄米収量は両品種とも「ゆきひかり」、「きらら397」並みであるが、「空育150号」がやや多収傾向である。玄米千粒重、玄米品質とも対象2品種並みに優れている。

### 3. おわりに

新品種の栽培適地については、概ね「きらら397」、「ゆきひかり」の栽培適地に当てはまるが、詳細については個々の品種特性を十分考慮しなくてはならない。

そのため各地の気象条件、土壌条件や「きらら397」、「ゆきひかり」などの生産実績、病害虫などの発生状況、施肥や防除の実態なども十分に検討し、産地間における生産者側の合意形成や、流通業界の期待と評価も反映させることが求められている。目下、検討中の「品種地帯別作付基準」において、その結果が示されることになっている。

これによって、北海道産米が一層発展することを期待したい。

## 主要畑作物の新しい品種の紹介

道立中央農業試験場 畑作部長 大槌 勝彦

平成6～8年に北海道の優良品種に採用された豆類、てん菜、馬鈴しょの品種について紹介する。

### 豆類

#### 大豆

「トヨホマレ」(十育220号)は、熟期中生、粒は中の大、「トヨムスメ」同様の白目大豆で“とよまさり”銘柄に含まれる。耐冷性は強く隣周辺の着色粒の発生が少ない安定良質品種である。線虫、わい化病に弱い倒伏には強い。栽培適地は網走、十勝の山麓及び沿海、道央北部及び中部の一部で線虫発生圃場を避ける。10a当たり2万本程度のやや密植により多収が期待される。平成8年の作付け面積は約100ha。

#### 小豆

「きたのおとめ」(十育127号)は「エリモショウズ」並に良質で、耐冷性があり、小豆落葉病、萎凋病に抵抗性である。栽培適地は「エリモショウズ」の栽培地帯で落葉病、または萎凋病の発生の恐れがある圃場。栽培上の留意点は、2病害に抵抗性であるが適正な輪作をおこなうこと。

平成9年度予想作付け面積は、本年主産地の十勝地方で落葉病が多発したため、2,000ha以上に増加することが予想される。平成8年の栽培面積は約780ha。

「ほくと大納言」(十育133号)は、粒大が「アカネダイナゴン」より約20%大きく、加工適性が優れる。栽培適地は道央、道南の大納言小豆の栽培地帯。栽培にあたっては耐病性がないので、適正輪作を行い、刈り遅れないよう適期収穫に努める。

平成9年度予想作付け面積は、採種圃の面積および栽培地での評判が良いことから約500haになると予想される。



左から「アカネダイナゴン」「ほくと大納言」「カムイダイナゴン」

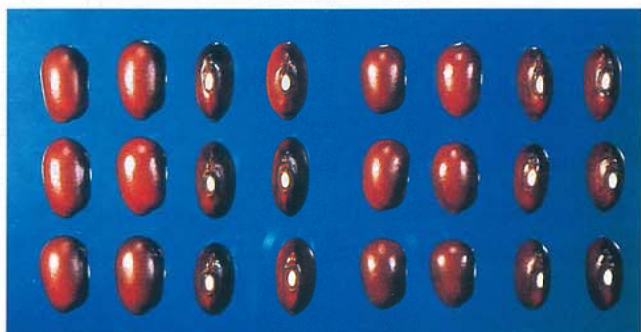
#### 菜豆

「雪手亡」(十育A52号)は、インゲン炭そ病に抵抗性で、子実収量は「姫手亡」をやや上回り、種子色の白度が高く、検査等級が約1等級上回る。手亡の主産地は十勝であるが、全道一円に適する。インゲン炭そ病の防除無しで栽培できる。

平成9年度予想作付け面積は、十勝では「姫手亡」と「雪手亡」が地域別に栽培が定着してきたので、本年並みと予想される。平成8年度栽培面積約2,400ha。

「福勝」(十育B62号)は「大正金時」より粒大が大きく、収量が上回り、成熟期の葉落ちが「大正金時」より良い。栽培適地は北海道一円(主に十勝、北見、上川)、多肥栽培を避け、大粒であるので脱穀時の粒の損傷に注意する。また、インゲン黄化病の防除に努める。

平成9年度予想作付け面積は、本年の栽培農家はほぼ特性どおりと評価しており、加工適性も優れるとの評価があって、倍増の800ha以上と予想される。



福勝(ふくまさり)

大正金時

## 馬鈴しょ

「サクラフブキ」(根育26号)は、晩生で高でん粉価のジャガイモシストセンチュウ抵抗性でん粉原料用品種。でん粉価は約23%で、でん粉収量に優れる。粉状そうか病に強く、PVYには抵抗性を示す。栽培適地は北海道一円。栽培にあたっては初期生育および塊茎形成が遅く、早期肥大性がやや劣るので、浴光催芽などにより生育促進を図る。平成9年度より一般栽培開始。

「ベニアカリ」(北海73号)は、中生で赤皮白肉のジャガイモシストセンチュウ抵抗性食用品種。でん粉価は約20%。肉質は粉質でマッシュ、コロッケに適する。栽培適地は北海道一円。栽培にあたっては茎が軟らかいので、軟腐病や菌核病を防ぐために多肥を避ける。また赤皮で緑化いもの識別が難しいため曝光に注意する。平成9年度より一般栽培開始。



「ベニアカリ」

このほか、奨励品種として平成10年から中生・大粒多収の食

用品種「さやか」(北海74号)と中早生・ジャガイモシストセンチュウ抵抗性加工用(ポテトチップ)品種「ヤンキーチップパー」(P921)が、また平成11年からは、中晩性・ジャガイモシストセンチュウ抵抗性でん粉原料用品種「アーリースターチ」(北海72号)が一般栽培可能となる。



「さやか」

## てん菜

「ハミング」(系統名 H119)は、オランダで育成された三倍体、単胚の一代雑種。根重は「メロディー」より多く、多収性である。根中糖分は「メロディー」並で、糖量は「メロディー」より多い。品質は良好である。北海道一円に適する。排水不良な圃場を避ける。平成9年に20,000ha作付けされる予定である。



「ハミング」

「ストーク」(系統名 Kawe-J 039)は、ドイツで育成された三倍体、単胚の一代雑種。根重は「モノエースS」より多く、根中糖分は「モノエースS」並で、糖量は「モノエースS」より多い。品質は良好である。北海道一円に適する。根腐れの発生することがあるので、排水不良な圃場を避ける。

平成9年に6,000ha作付けされる予定である。

「ユーデン」(系統名 HT9)は、スウェーデンで育成された三倍体、単胚の一代雑種。根重は「スターヒル」より多く、多収性である。根中糖分は「スターヒル」よりやや低いが、糖量は「スターヒル」より多い。品質は「スターヒル」並で良好である。北海道一円に適する。排水不良な圃場を避ける。

平成9年に10,000ha作付けされる予定である。

# 花きの消費・市場動向

株式会社大阪花き 営業部課長 細川 政広

近年、全国的に花き生産は、依然増加傾向にあり周年化と販売力強化と相まって年々、競合産地、品目、生産量は拡大している。

流通面においても、平成5年からの市場の整備・統合により市場の大型化、集荷能力拡大が進んでいる。また、スーパー等量販店の販売拡大に伴ってセリ販売の割合が減少し、情報取引（予約相対・先取り）が増加している。平成10年には都心部において、5市場10社（独自路線数社有り）となり、名古屋においても大型化・機械セリ化の方向へ進んでいる。

今後生産地においては、大型・特殊流通に対応出来る体制作りが急務になってくる。

また、生産地が遠隔化する中で消費地では新鮮で高品質なものを要求するため、生産地においては予冷施設及び輸送時の鮮度保持技術の向上も望まれる。

需要面をみると、景気の低迷は長期化しており特に業務用・ギフト用の需要の不振は続いている。しかしながら、一般消費は拡大傾向に有り消費者の多様化、低価格志向により着実に伸びている。

この様な中で北海道内の産地の評価を高めるためには、①品目の規模拡大②天候に左右されずに安定した生産が出来る施設化による出荷量の増大③全体の高品質化によって、荷受け市場での占有率を高める必要がある。

そして、④系統共販率を高めるとともに、⑤市場の拠点化を進め、⑥道内産地をイメージさせる大型品目の育成が今後の課題であると思われる。

ターチス～和歌山・高知・長野・北海道、トルコギキョウ～高知・大分・和歌山・長野・岐阜、ユリ類～高知・新潟・東北・北海道、チューリップ～兵庫・高知・新潟、スイートピー～和歌山・九州などとなっている。

全国的な生産意欲の高揚と各県の系統共販額の伸長が目立つ。近年の特徴としては、新潟や岩手県を中心とした東北地方での生産が拡大している。

## 花き消費動向

消費形態は 1) 稽古用 2) 冠婚葬祭・ホテルなどの業務用 3) 家庭用 4) ギフト用に分かれる。

近年特に量販店の伸びが著しく、全体の2割以上を占めるまでになっている。低価格に加えて、買いやすく色々な花を選択できる販売形態が消費を大きく伸ばしているといえる。



## 花き生産の現状

京阪神において平成6年の切り花入荷本数は、644,970千本（前年対比144%）で毎年増加傾向にある。特に増加の目立つ品目は、キク類・スターチス・トルコギキョウ・バラ・ユリ類・カーネーション・チューリップ・スイートピーなどである。主要産地は、キク～沖縄・長野・愛知・福岡、小ギク～沖縄・兵庫・奈良・和歌山・福井、バラ～奈良・滋賀・和歌山・静岡、ス

## 品目・品種について

### (1) スターチス関係

#### ① シヌアータ系

北海道は和歌山と提携を行っているが、和歌山に比べ出荷期間が短く量も少ない。また品種構成においては、7月までと8月以降については違っても良いと思う。

長野県のある産地の場合、7月までは紫系30%、ブルー系25%、ピンク系20%、バイオレットクィーン・ニューピンク系15%、その他10%となり、下旬には紫系が増加、8月には紫系55%、ブルー系15%、ピンク系10%、バイオレットクィーン・ニューピンク系10%、その他10%で盆前の紫系の出荷量がピークとなり、その後は秋に向けブルー系、ピンク系が多くなる。

この様に需要に合わせて品種構成を変え、消費ニーズに応える体制を作り上げている。また、各産地ごとにリレー出荷が出来ており現在では周年出荷となっている。

## ② ハイブリット系・宿根系

主な品種はブルファン100・ミスティブルー・ミスティピンク・ベルドラード・サンピエール・デモサ・エミールなど。

従来、夏場の退色・軟弱徒長などの品質面で問題が多かったが、品種改良・前処理の徹底と鮮度保持を十分行うことで品質が向上、ハウス栽培により周年出荷が可能になったことで、現在では装飾花・添え花材料として欠かすことのできない品目となっている。

スターチス関係においては、シヌアータ系では配色・等階級のバランス・1本当りのボリュームを考慮した規格で需要期の安定供給体制作り、ハイブリット系・宿根系では花色の退色・花落ちを最小限に抑えることが特に大切であると思う。

## (2) ユリ関係

アジアティック系、オリエンタル系と品種の多さ、色彩ではかなりにのぼる。

市場では、100円/本~1,000円/本と幅広い金額帯となっている。

入荷産地も暖地（九州・四国・中国地方）はもとより新潟・長野・東北・北海道と全国から入荷がある。夏秋期の産地では、新潟が一番で入荷も多く、品質、ロットに関しても安定している。カサブランカでいうと、草丈は90cm~1m、茎は固く、しっかりしており、花は大きく上向きで輪は4~5輪あれば十分である。

北海道の場合、一時的に一斉出荷となり、短期出荷で終わってしまう。もっと地の利を生かしたり出荷体制を作り、夏場の期間中600円/本~800円/本を目安に安定出荷することは、イメージアップと価格安定にもつながると思う。

## (3) カーネーション関係

大輪系、スプレー系とある中で北海道においてはスプレーカーネーションの産地が多い。競合する産地としてはJ A 諏訪みどり、駒ヶ根市といった長野県である。

道産のものは色彩・茎ともに良く出来ており、長野県と比べて品質的に問題はないと思われる。問題なのは、品種の数・オリジナル品種・出荷期間・ロット数で、これが長野県をまだまだ追い越せない原因と思う。

## (4) カスミ草関係

競合する産地としては長野・東北である。

長野県の品種構成はB F（ブリストルフェアリー）が全体の80%あとの20%がゴラン・G 7となっている。

東北においてもB Fが中心となっているが、現在市場に入荷している品種はゴランである。関東市場ではB F以外は売れにくいと聞かすが当市場ではそんなことはなく、入荷している品種は、B F・ダイヤモンド・ゴラン・G 7・ダボール・ビッグベン・アーベルなどと多種多様である。

夏場のカスミ草で大切な事は花持ちであり、1~2日で花黒

となり商品価値がなくなってしまう。このことが夏場の消費の落ち込みとなっており、他品種への移行とつながっている。

北海道と大阪との温度差を考え、適した品種構成で品質に注意をすれば夏場のカスミ草は十分に販売出来ると思う。

## (5) その他期待品目

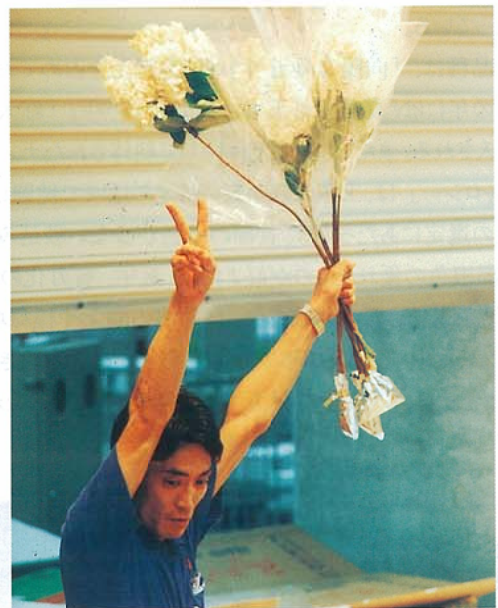
スイートピーについて、品質的には良く出来ており春から、6月いっぱいには十分販売可能である。品種・ロットを増加して安定した出荷を願いたい。

バラについて、夏場の品薄は明らかなことで輸入物が入荷しているが、品種・ロット不足のため今後の入荷を期待したい。

デルフィニューム、ラクスペアについて、毎年期待される品目である。9月以降になると需要が増え色目によっては、品薄となり単価が高騰する色彩も多く、業務・花束・アレンジにも使いやすい。手頃な価格で動けば人気もあり安定すると思う。

## 今後北海道へ期待すること(買参人からの意見も含めて)

- ① 北海道と和歌山県は周年供給に向けたリレー出荷の提携をしているが、もっと取り組みの充実をはかってほしい。
- ② 北海道の産地名・主な取扱品目・出荷予定期間・数量・ピーク時期などを記入した一覧表の配付によって買参人も買いやすい（北海道が身近になる）。
- ③ 系統共販率の向上
- ④ 出荷期間の延長・ロットの増加
- ⑤ 品質の高位平準化
- ⑥ 規格の統一化 など



最後になるが、今後各市場が大型化・機械セリ化する中で、花きは鮮度が重要な商品価値となってくる。日持ちの良い花の生産と「厳しい選別」鮮度保持流通対策などに力を注ぎ、21世紀へ向けより一層の生産振興を期待する。

# 品種からみた北海道野菜の作付動向

道立花・野菜技術センター 総括専門技術員 伊丹 清二

野菜の品種は、消費側の要望に沿いつつ、その地域の作型や土壌条件などの特色を踏まえ、高品質でかつ収量の安定度が高いものを選定すべきである。ここでは、主要品目の指定産地における主要品種の作付動向を紹介しながら品種選定上の留意点を述べる。

(注:品種の作付面積の動向中、たまねぎはホクレン調べ、他の品目は平成6年野菜指定産地などの調査値から推定した。)

## 【たまねぎ】

近年の作付面積は指標値をやや下回っており、平成8年は12,370haと推定される。

主要品種の作付割合をみると「オホーツク1号」12%、「ウルフ」(T-383) 11%、「北もみじ」5%、「ツキヒカリ」5%、「北もみじ86」21%、「スパーク北もみじ」17%、「カムイ」(T-400) 17%になっている。ここ数年の傾向は、早生系の比率が高まっていることと、大玉率の高い新品種の導入が目立っている。品種の選定にあたっては、各産地の出荷計画に基づく早・中・晩生系の組み合わせを考慮して推進する。また、早出し用「北早生」の導入地域では、早期定植とべたがけ被覆栽培などで生育促進に努める。

## 【にんじん】

平成8年の作付面積は6,990haと推定され、ここ数年増加が目立っている。

主力品種は、「向陽2号五寸」が95%以上を占めており、種子不足の年には「夏蒔鮮紅五寸」「ポールレット」「紅太郎」などが導入される。また、差別化商材として期待されたナンテス系の「キャロシー」は、土壌条件が良い特定の地域で健闘している。

品種の選定にあたっては、首部の着色が少ない吸込みタイプで、肉部根色の優れたものが好まれる。近年、省力化のために無間引き栽培をめざす地域では、発芽率の向上や機械収穫性能を高めるため、黒葉枯病に強い品種への期待が大きい。また、早出し作型に「向陽2号五寸」を選ぶときは、べたがけ被覆栽培によって抽台(とう立ち)を軽減してほしい。



にんじん品種選定現地研修



にんじん品種特性調査ほ場

## 【だいこん】

近年、作付面積は横ばい傾向にあり、平成8年は5,710haと推定される。

品種は作型によって異なり、トンネル・春まきは「T-340」、初夏まき以降は「健志総太り」「涼太」「福味2号」「かつみ」「耐病総太り」などの青首系で占められ、それぞれの地域に適した品種が作付けされている。

品種選定にあたって重視すべき特性は、表1に示す様に、抽台の早晩、生理障害の赤しん症・空洞症などの多少、難防除病害の軟腐病や土壌病害の萎黄病、パーティシリウム黒点病の耐病性なども検討すべきである。

表1 だいこん青首系品種の選定における特性の重要度

| 特 性     | 留 意 点                            | 重要度 |
|---------|----------------------------------|-----|
| 抽台の早晩   | 最低気温13℃以下のときに播種する作型              | ◎   |
| 生 理 障 害 | 高温期の作型、赤しん症、空洞症の多少、ス入りの早晩        | ◎   |
| 耐 病 性   | 高温期の軟腐病多少(肩割れの多少)萎黄病、パーティシリウム黒点病 | ◎   |
| 根 首 色   | 抽根部の緑色度                          | ○～◎ |
| 根 長     | 低温期の伸長性など                        | ○～◎ |
| 根 形     | 根径、抽出根長、尻しまりなど                   | ○～◎ |
| 生育のそろい  | 一斉収穫適応性、施肥反応と曲りの多少               | ○～◎ |
| 耐 輸 送 性 | 裂根の多少(雨中収穫における裂根の多少)             | ○～◎ |
| 食 味     | 硬さ、からみ                           | ○～◎ |
| 肥大の早晩   | 低温肥大性(早どり作型)                     | ○   |
| 側根の太さ   | ひげ根の太さと多少(省力化)                   | ○   |

注:1)重要度 ◎:非常に重要、○:重要

2)耐病性は、ウイルス病、萎黄病などの抵抗性品種が育成されている。



だいこん品種特性調査ほ場

## 【キャベツ】

畑作地帯を中心に増加しており、平成8年は2,930haと推定される。

主力品種は、ボールタイプの「アーリーボール」などが35%、サワータイプの「金系201号」「北ひかり」「藍春ゴールド」などが50%、寒玉タイプの「YRしぶき2号」「照々丸」などが8%程度作付されているが、それぞれの品種特性を表2

に示した。

品種選定にあたっては、仕向先の用途によって要望するタイプが異なるので注意すべきである。近年、高温期を中心に生理障害の緑腐れ症（アンコ球）が発生し品質を低下させており、この対策が急がれている。

表2 キャベツの品種特性（7～8月どり）

| 品種名       | 種子元  | 早晩性 | タイプ | 球型   | 一球重(kg) | 草姿  | 葉色 | 肉質  | 甘味  | 緑くされの多少 |
|-----------|------|-----|-----|------|---------|-----|----|-----|-----|---------|
| ア-リーボール   | サカタ  | 極早生 | ポ   | 丸    | 1.3     | ヤ立性 | ヤ緑 | ◎   | ◎   | ○       |
| グリーンボール   | //   | //  | ポ   | 丸    | 1.3     | //  | ヤ緑 | ◎   | ◎   | ○       |
| 金系201号    | //   | 早生  | サ   | 波葉偏円 | 1.5     | ヤ開張 | 緑  | ◎   | ◎~○ | ○       |
| 北ひかり      | タキイ  | 早生晩 | サ   | 波葉偏円 | 1.6     | 開張  | 緑  | ◎   | ○   | ○~△     |
| Y R 青春    | 渡辺採種 | 極早生 | サ   | 波葉偏円 | 1.5     | ヤ開張 | 緑  | ◎   | ○   | ○       |
| 藍春ゴールド    | 日本農林 | 早生  | サ   | 丸    | 1.5     | 立性  | ヤ緑 | ◎   | ◎   | ○       |
| Y R しぶき2号 | 石井育種 | 晩   | 寒   | 偏円   | 1.6     | ヤ立性 | 緑  | ○~◎ | ◎   | -       |

注) タイプ：ポ=ボールタイプ サ=サワータイプ 寒=寒玉タイプ  
資料：北海道野菜地図（その19）

## 【ほうれんそう】

道外移出向けのハウス雨よけ栽培が着実に増加して作付面積は、平成8年1,500haと推定される。品種は作型によって異なり、それぞれの主力となる品種特性を表3に示した。

品種選定にあたっては、抽台の早晩、葉色の濃さ、べと病抵抗性（レース別）、草姿と収量性など重視して決めるべきである。

表3 ほうれんそうの品種特性

| 群   | 品種名      | 種子元  | 抽台性  | 草姿 | 葉形   | 葉色  | べと病抵抗性レース |
|-----|----------|------|------|----|------|-----|-----------|
| I   | ソロモン     | サカタ  | 早抽性  | 立  | 中(3) | 中   | 1、3       |
|     | リード      | サカタ  | //   | 立  | 中(3) | 薄~中 | 1、3       |
| II  | ニュースターII | 雪印種苗 | ヤ早抽性 | 立  | 中(3) | 中~濃 | 1、2、3、4   |
|     | グローバル    | サカタ  | //   | 半立 | 丸(4) | 中~濃 | 1、3       |
| III | 晩抽バルク    | サカタ  | ヤ晩抽性 | 半開 | 丸(4) | 中~濃 | 1         |
|     | サンライト    | サカタ  | //   | 半開 | 中(3) | 濃   | 1、3       |
|     | オリオン     | サカタ  | //   | 半立 | 中(3) | 中~濃 | 1、3       |
|     | ジュリアス    | 雪印種苗 | //   | 半立 | 丸(4) | 中~濃 | 1、2、3     |
| IV  | トニック     | 渡辺採種 | 晩抽性  | 半開 | 丸(4) | 濃   | 1-3       |
|     | サマーワールド  | 住化   | //   | 半開 | 丸(4) | 濃   | 1-3       |
|     | スターマイン   | 大谷種苗 | //   | 半開 | 丸(4) | 中~濃 | 1-3       |

資料：北海道野菜地図（その19）

## 【ねぎ】

作付面積は、道外移出の拡大で全道的に増加しており、平成8年は1,110haと推定される。

主力品種は、夏ねぎが「元蔵」「永吉」「金長3号」、秋ねぎが「元晴」「吉蔵」「長寿」などで90%以上を占めている。品種選定にあたっては、首部しまりの良否、分けつの多少のほか、早出し用では軟白部の肥大の良否、遅出しでは寒波による葉折れの強弱（耐寒性）などが重視される。また、府県とのリレー苗による簡易軟白ねぎの3月定植では、抽台の多発が問題となっているので晩抽性の品種導入が望まれる。

## 【かぼちゃ】

作付面積は、近年、減少傾向にあり、平成8年は6,900haと推定される。

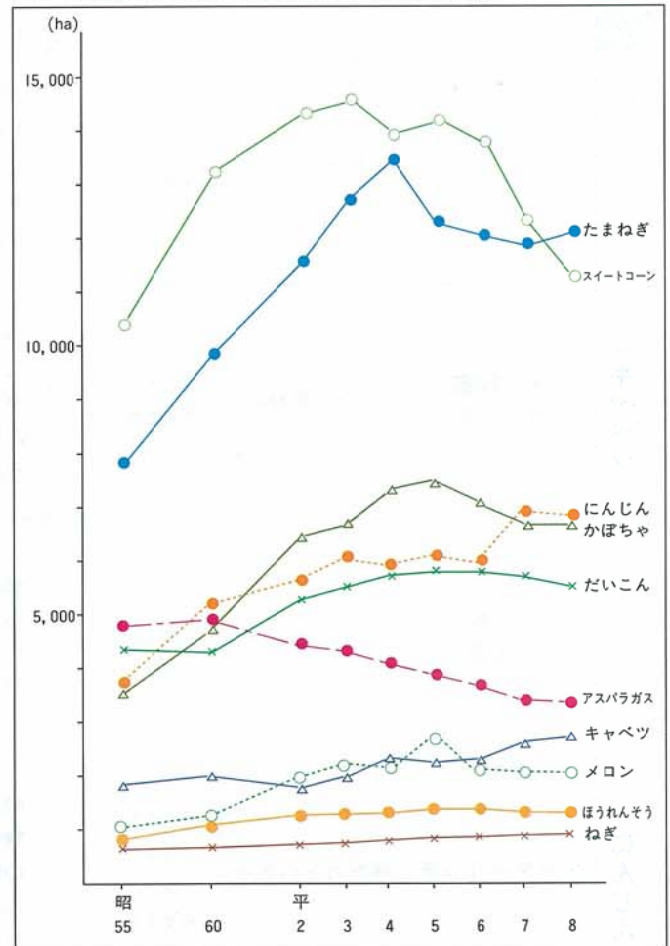
主力品種は、「えびす」が90%以上を占め「みやこ」「くりあじ」「味平」「エムセブン」などが作付けされている。

品種選定にあたっては、作型と早晩性、着果性、果の大小、果肉色、糖度、肉質などを総合的に判断して決める。

## 【メロン】

作付面積は、増加を続けてきたが、近年、横ばい傾向にあり、平成8年は2,260haと推定される。主力品種は、赤肉系が「夕張キング」「サッポロレッド」「エルシー2号」「I・K」「ビューレッド」「ルピアレッド」などで全体の76%を占め、年毎に作付比率を高めている。青肉系では「キングメルティ」「キングナイン」「クルーガ」なども根強い人気を持っており、まさに「メロン品種戦争」が激化している。品種選定にあたっては、メロンはギフト商材として差別化要素も強く求められるので、流通サイドの要望を踏まえて検討すべきである。近年、赤肉系ブームの傾向にあるが、本道の青肉系メロンの優れた特性を売り込むPR戦略も忘れてはならない。


図1 北海道における主要野菜の作付面積の推移







(資料：昭55～平成6農林水産統計年報、平成7・8道畑作園芸課推定値)

# 野菜・花きの注目品種の特徴（品種紹介）

「野菜」 新品種や普及しつつある主要品種のなかから、道内の栽培で有望な品種を選定したので紹介します。

| 作物・品種       | 種苗会社       | 作 型   | 特 徴 点   |   |
|-------------|------------|---|---|---|
| ◎ だいこん(春まき) | T-340      | タキイ種苗(株)<br>春まきハウス<br>春まきトンネル<br>春まき        | 極晩抽性で低温肥大性にすぐれた青首春だいこん。抽台の安定性から春まきだいこんの基準品種的位置づけ。肉質はち密で品質良好、す入り遅く、曲がり少ない。播種適期は品種特性を生かして6月上旬まで。                  |    |
|             | 春北海        | (株)トーホク<br>春まきハウス<br>春まきトンネル<br>春まき         | 極晩抽性で萎黄病、ウイルス病に強く、す入りの遅い青首総太りだいこん。地上部はコンパクトで作りやすい。品質安定し、揃いも良く、ひげ根少なく肌は美しい。播種適期は3月上旬のハウスから6月まきまで。                |    |
|             | 春の友総太      | (株)河田商会<br>春まきハウス<br>春まきトンネル<br>春まき         | 極晩抽性で揃いが非常に良く、ひげ根少なく、肌、肉質とも良好な青首総太りだいこん。ウイルス病、軟腐病に強い耐病性を示し、萎黄病に抵抗力を持っている。播種適期は札幌地区で6月始めまで。                      |   |
| ◎ キャベツ      | 夏山(サワー系)   | (株)サカタのタネ<br>春まき<br>晩春まき                    | 「金系201号」より耐暑性の強い純系夏どりサワータイプ。高温期の球の色あせ、平玉化、尻部の腐敗が出ない。草姿はやや開張の小葉、球形はやや腰高。萎黄病抵抗性。低温期の収穫はやや小玉となり、「金系201号」のほうが成績が良い。 |  |
|             | YR緑宝(サワー系) | (株)日本農林社<br>春まき<br>晩春まき                     | 萎黄病抵抗性の中早生種。外葉は春系に近い波葉でやや大きく、葉色は緑。球形はやや平型、葉質はサワー系に準じ、肉質、甘みとも良好。石灰欠乏による縁腐れが出づらく、帯広地区で栽培定着している。                   |  |
|             | 若峰(寒玉系)    | タキイ種苗(株)<br>初夏まき                            | 球揃い、球太りの良い寒玉系の早生種。萎黄病に強く、作りやすい。草姿はやや開張、球形は尻づまりの良い偏円で、球芯細く、裂球が極めて遅い。近年、寒玉系の市場ニーズがあり普及が期待される。                     |  |
| ◎ にんじん      | ベーターリッチ    | (株)サカタのタネ<br>春まきトンネル<br>春まき<br>晩春まき<br>初夏まき | 晩抽性、耐寒性、耐病性の中生種。吸込性。5cm株間の密植で裂根なく良く揃う。根形は、なで肩長目の円錐形(18~20cm)で肉質硬く、根色、芯色ともに濃鮮紅色。道内、中規模産地での普及が期待される。              |  |

|              |                              |              |                                   |  |  |
|--------------|------------------------------|--------------|-----------------------------------|--|--|
| ◎<br>にんじん    | 試交<br>C H 9009<br>(仮称キャロシー2) | ホクレン         | 春まきトンネル<br>春まき<br>晩春まき            | 既存のチャンテネー系より人参臭の少ないナンテスタ<br>タイプ。晩抽性で、従来のキャロシーの欠点、頭突り<br>を改良し、作りやすくした新品種。キャロシー産地で<br>の普及が期待される。                 |   |
| ◎<br>スイートコーン | 試交<br>H 3052<br>(バイカラー)      | ホクレン         | 半促成<br>トンネル早熟<br>露地早生             | 先端不稔がほとんどなく、ボリューム感のあるバイカ<br>ラー極早生種。黄白の粒色濃く光沢があり食味良<br>好。8年春の低温での初期生育良好は注目される。                                  |   |
|              | キャンベラ90<br>(イエロー)            | タキイ種苗株       | 露地早熟<br>露地直はん                     | 従来のイエロー種と食感、甘さ、食味の違うニュータ<br>イプ。道内での収穫日数は90日プラス7日程度の<br>中生。バイカラー中心の作付、流通中、日持ち性<br>安定で期待されるも、栽培ではキセニアに注意が必<br>要。 |   |
| ◎<br>メロン     | ルピアレッド<br>(赤肉メロン)            | 株みかど<br>育種農場 | 加温促成<br>無加温半促成<br>トンネル早熟<br>ハウス抑制 | 作りやすく、日持ち性の良い赤肉ネットメロン。つる性<br>やや強く茎太、節間つまり、雄花着生、着果性も安<br>定。開花後50～55日程度。果肉色濃いオレンジ。う<br>どんこ病、つる割れ病抵抗性で接ぎ木不必要。     |  |

※ 作型の播種期、定植期、収穫期は「北海道野菜地図」を参照願います。

◎ 春まきだいこんについては、抽台の安定性から「T-340」が従来使われていましたが、平成8年は「春北海」のほか、多くの品種が各地に導入されました。残念ながら、春先からの低温、長雨などの天候不順から全道的に抽台や赤しん症等の生理障害がみられそれぞれの品種特性が発揮できない年となりました。

明年の品種選択は難しくなりましたが、どの品種についても、地温確保、数粒播種と間引き、窒素多肥を避けた基本の肥培管理にもどり、その品種の特性を生かした高品質だいこんの製品収穫向上が求められています。

## 「花き」

ホクレン滝川種苗生産センターでは、セル成型苗「北のプラダ」花き苗を平成5年度540千本より生産供給を開始。「トルコギキョウ」「デルフィニューム」「ラークスパー」「キンギョソウ」などを主体に年々供給量が伸びています。



「トルコギキョウ」 あすかの漣(サカタのタネ提供) 「デルフィニューム」 ベラドンナ インブ(第一園芸提供)

◎ ホクレン種苗部では、優良品種の確保・供給に努めていますが、今後とも各種苗会社の開発品種や本会独自品種の中から、道内栽培に適した有望品種の掘り出しを行い、地域に適合した品種の普及を行なって参ります。また、サンプル種子を農協へ提供するなど現地試験も積極的に行なって参りますのでご活用下さい。

【ホクレン種苗部】

## 緑肥作物 注目の新品种

近年、農業・化学肥料依存型や農業機械の大型化にもなう踏圧などによる生産基盤の悪化のおそれから、土づくりに対する関心が高まっています。

その一つとして、緑肥作物の栽培が増加しつつありますが、ここでは来年度から本格供給を開始する緑肥作物の新品种について紹介します。

### アブラナ科『夏カラシ』

夏播き専用の景観保持効果の高い緑肥として最適なシロカラシの新品种です。

開花期は春播きで従来の品種サーバル、キカラシより約5日早く、道内で唯一の極早生品種です。また、夏播きではサーバル、キカラシより約1ヵ月も早い9月末～10月初めには開花するため、景観緑肥としても最適です。初期生育が早く生育期間が短い場合でも大量の有機物が得られるため、サーバル、キカラシの生育が緩慢な地域や播種時期が8月中下旬になる場合に適した品種で、サーバルに比べ10%程度の増収となります。

栽培にあたっては、アブラナ科野菜との連作を避けること(後作物には豆類が適する)、結実すると「野良ばえ」が懸念されるため開花後20～30日を目安に鋤込む必要があります。



写真1 左 キカラシ、右 夏カラシ

### ヘアリーベッチ『まめ屋』

この品種は、夏播き可能なマメ科緑肥として、最近網走管内を中心に秋播き小麦収穫後の作付けが増えています。

ヘアリーベッチは土着の根粒菌で十分な根粒を着生し窒素固定を行います。また、C/N比が低く鋤込み後速く分解するため、翌春の窒素肥料の減肥も可能です(3～6kg/10a)。しかも、アレロパシー作用による翌春の雑草抑制効果もあります。えん麦やひまわりとの混播で収量増加が見込めます。

注)アレロパシー作用=植物の根などが出す物質によって他の生物が影響を受けること(他感作用ともいう)。例えば、マリーゴールドがネコブセンチュウの成育を抑える作用。



写真2 まめ屋の旺盛な根粒着生



写真3 まめ屋とえん麦の混播

### ひまわり『りん蔵』

道内初の景観緑肥用ひまわりで、夏播き可能な極早生品種です。

8月中下旬の播種でも10月中には開花が始まります。1m弱の短稈矮性品種で、密植栽培による収量増加が可能です(15,000本/10a以上)。また、V A菌根菌共生作物であるため、後作物のりん酸吸収を促進させ増収が期待でき、りん酸吸収係数が高い火山性土壤で特に効果を発揮します。霜にも枯れないため11月頃まで綺麗な花が楽しめ、景観緑肥としても最適です。



写真4 りん蔵8/9播種、9/未開花

【ホクレン酪農畜産推進部】

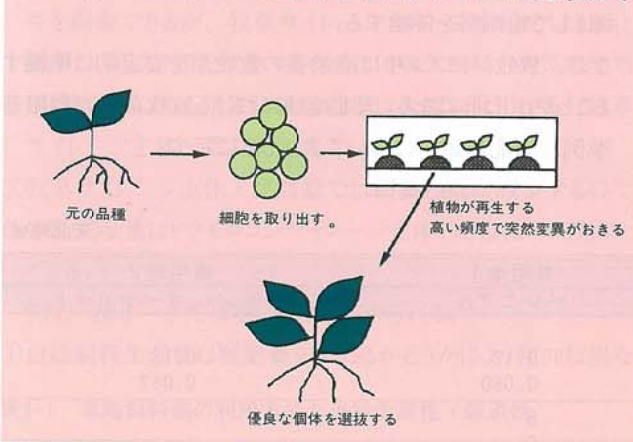
## より身近になったバイオ技術

前号(3号)に引きつづき、農業においても現実のものとなりつつある作物のバイオ技術について紹介する。前回では、遺伝子組み換え、茎頂培養、細胞融合について解説したが、今回はソマクローナル変異、薬培養について紹介する。

### ソマクローナル変異

植物は動物と違い、細胞から植物が再生可能である。葉などから取り出した細胞を容器の中で適当な養分などを与えて育てると、細胞が分裂して塊になり芽が出て植物が再生する。再生した植物は基本的にもとの植物の特徴を持つが、高い頻度でさまざまな突然変異がおきていることが知られている。この突然変異をソマクローナル変異と呼び、作物の品種改良に利用されている(図)。

#### ソマクローナル変異を利用した品種改良



世界的にみるとトマト、セルリー、にんじんなどでソマクローナル変異を使用した品種が作られている。日本では民間を中心に稲の品種改良に利用され、すでにいくつかの品種ができています。

ホクレンでも馬鈴しょ、男爵いもの細胞から、皮を剥いてもほとんど褐変しない系統「ホワイトバロン」を育成するなど品種改良技術として活用している。

### 薬培養

植物の雄しべ(薬)を容器の中に入れ、適当な養分などを与えて培養すると、雄しべの中の花粉から植物を得ることができる。この技術を薬培養と呼び、染色体(遺伝を支配している)が通常の半分の植物を作り出せる。現在のところ、薬培養が適用できる作物は限られているが、育種の強力な技術として使用されている。

植物は通常2組の染色体を持っている。1組は母親から、もう1組は父親に由来する。2組が異なった特性を持っているため、子どもは染色体の様々な組み合わせで多様な特性を持つことになる。人間の子どもの顔がみな違う顔で異なった性格を持つものと同じようなものである。生物の世界ではこの多様性が重要な場面も多いが、作物の場合不都合なことが多い。稲の一穂に様々な米粒ができては農産物として流通できなくなる。従来は、自分の花粉を自分の雌しべにかけると呼ばれる方法を何代も繰り返して、徐々に2組の差をなくすやりかたをしており、非常に長期間かかっていた。薬培養で染色体を半分の1組しか持たない作物を作りだし、化学薬品などで処理して染色体を2倍にすることで、まったく同じ染色体を2組持つ作物を短期間で作り出すことが可能になった。

道立上川農業試験場では稲の薬培養を早くから手がけ、すでに通常の品種改良技術として優良品種「彩」を生みだしている。ホクレンでも春播き小麦とスイートコーンについて独自の薬培養技術を開発し、従来の交配育種に加えて品種改良の強力な手段としている(写真)。

#### 春播き小麦の薬培養



培養中の薬

花粉からの植物再生

# 被覆肥料の活用で良質野菜の低コスト安定生産を

## はじめに

近年、経営面積の規模拡大が進む中で労働の効率化が強く求められている。一方、環境に対する影響の軽減が重要な課題となっている。

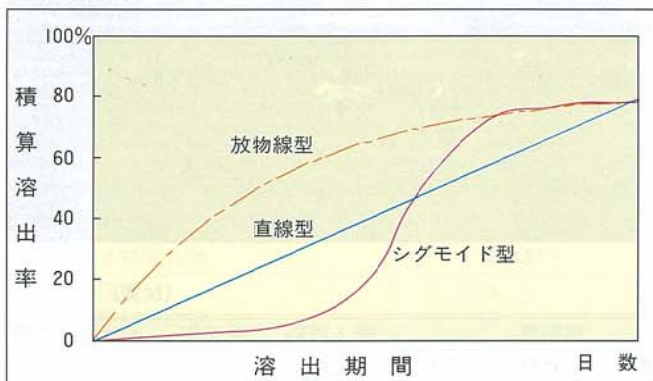
これまで各肥料メーカーは、作物の養分吸収に必要な成分を生育に合わせて供給できる緩効性の被覆肥料を開発してきた。これを全量基肥として施用することにより、分追肥の省力化が可能となる。また養分利用率が高いことから「環境に優しい肥料」という位置づけもされている。

ホクレンでは、この被覆肥料について平成2年度より施肥合理化ほ場試験を通じて、追肥省力効果と被覆素材ごとの溶出特性を検討してきた。

## 被覆肥料とは

尿素や各種の化成肥料を合成樹脂などの皮膜で覆った肥料を被覆肥料と呼ぶ。皮膜中に溶出調整剤を混合したり、皮膜の厚さを変えて溶出を調節したもので、その溶出パターンは大きく放物線型、直線型、シグモイド型の3タイプに整理される(図1)。

図-1 溶出パターン



## 被覆肥料のタイプ

被覆肥料の溶出は、主として温度に関係し、水分、pHにはほとんど影響されない。

一定の温度条件(例えば25℃)で、含まれる成分の80%が溶出する日数による種々なタイプがあるが、生育期間の短い本道には、40日、70日、100日タイプなどが適している。

さらに成分的には、次の2種類が主流である。

- ①窒素、りん酸、加里の三要素からなる燐硝酸加里を被覆した肥料は、低温時から高温時まで安定して直線型の溶出を示す。硝酸態窒素を含むため、主として野菜畑に適する。
- ②窒素成分のみの尿素を被覆した肥料も、溶出パターンは低温条件でも安定してほぼ直線型を示す。尿素は溶出後アンモニウム態窒素となるため、主に水田に適する。

## 被覆肥料の本道適応性

### (1)野菜の作型や追肥体系に適合する肥料の選択

本道で生産される野菜の中でも、収穫期間が長い施設トマト、ピーマン、きゅうりにおける良品安定生産のポイントは、必要な養分を継続的に補給することである。

またスイートコーン、ながいも、ごぼうなどは、生育中期以降の養分補給が大切である。

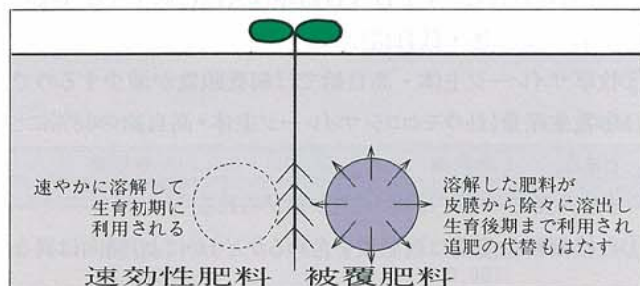
本道の冷涼な気候のもとで、被覆肥料による基肥重点施肥法に取り組むには、次のような溶出条件が求められる。

- ①低温条件下においても溶出が安定していること。
- ②溶出タイプではシグモイド型より直線型が適する。

### (2)被覆の主体は窒素

被覆肥料には多くの種類があるが、特に追肥として必要な成分が求められている。本道のように初期生育が重要な地域ではりん酸は速効性の形態であることが望ましい。また被覆肥料は成分あたりの単価が高くなるのでコスト低減のためには、窒素成分主体の被覆肥料に、速効性のりん酸や加里を配合したBB肥料が効率的である(図2)。

図-2 速効性肥料と被覆肥料の肥効比較



### (3)窒素形態の選択

一般に畑地条件下の作物では、硝酸態窒素の形態で吸収される割合が多い。このことから、追肥が必要な野菜には硝酸態窒素を含む肥料が望ましい。

## 被覆肥料の上手な使い方

被覆肥料は徐々に溶出するので種子や苗の近くに施肥しても、濃度障害が回避でき、かつ追肥の省略も可能である。

また肥料効率が高いため、作物の生育にマッチするよう肥料のタイプを選択することで、減肥が可能となる。

生産費を抑えて良質野菜を安定生産するため、被覆肥料を有効に利用していただきたい。

【ホクレン生産資材推進部 長屋貞夫】

# 被覆資材の種類と特性

近年、様々な特性をもつ被覆資材が出回っているが、使用する際にその種類ごとの諸特性をよく知っておく必要がある。特性としては、光学的特性、熱に関する特性、水・湿度に関する特性、機械的特性、耐候性がある。代表的な被覆資材である農ビ・農ポリの用途と特徴について、以下に説明する。

## 被覆資材の用途

### ①外張り資材

温室・雨避け施設・トンネルなど屋根・側壁などに張って作物を保護・育成する。

### ②内張り資材

外張りした構造物の内側に張って保温や遮光などに用いる。

### ③マルチ資材

地面に直接に張って、地温・土壌水分の調節・病虫害防除・雑草発生防止・果実の着色促進などに利用する。

### ④遮光資材

日照を遮って、温度や光の抑制・日長調節などに用いる。

### ⑤べたがけ資材

作物を直接被覆して、保温・昇温抑制・防霜・防雹・防虫・防鳥など、作物保護のために使用する。

## 各種農ビ、農ポリの特徴と用途

表-1 および表-2 を参照

【ホクレン施設資材部】

表-1 農ビの種類別特性と用途

| 種類      | 特性                                | 用途  | 商品名                                  |                            |
|---------|-----------------------------------|---|--------------------------------------|----------------------------|
| 一般農ビ    | 透明・梨地で光線透過、温度上昇が異なる。無滴は防曇性処方。     | 透明：ハウス、トンネル用、一般作物向け<br>梨地：果樹・花き・タバコ、露地、トンネル     | ノービエース、三井ビニール、シーアイ農ビ、クミアイビニール、オカモト農ビ |                            |
| 防塵農ビ    | 片面アクリル樹脂処理。ほこり着きにくく、耐候性大。防曇性長期持続。 | 長期使用ハウス向け、降灰地用、強光型作物向け（紫外線除去に注意）                | クリーンエース、スーパーライトT、クリーンヒット             |                            |
| 防霧農ビ    | 防曇性+防霧処方 ハウスのキリ・モヤ抑制              | 11月～2月までの密閉期間、水田裏作等の地下水位上昇地域で活用                 | キリナイン、キリカット、スカイエイト、モヤレス、ハイヒットキリサラバ   |                            |
| 光線選択農ビ  | 着色農ビ                              | 可視部（400～700nm）の波長別光線透過率調節（ブルー・紫・ピンク）            | ブルー、紫：軟弱野菜向け<br>ピンク：果菜・葉茎菜用          | ムラサキエース、三井ブルー、ほうれん草用       |
|         | 紫外線カット                            | 380nm以下の紫外線カット                                  | 病虫害防除用、軟弱野菜向け（アントシアニン着色不良、ミツバチ飛翔不良）  | カットエースキリナイン、スカイエイトUVカット    |
|         | 紫外線強調                             | 380nm以下の紫外線透過率を上げたもの                            | なす・いちご用など作物選択性、花きの花弁着色向上など           | イチゴ・ナスSUN                  |
| 保温性強化農ビ | トンネル用                             | 保温性優れる。遠赤外部の主として10μを中心とした透過率を低下させたもの。透明度はやや落ちる。 | 果菜類等一般作物向け                           | サンホット、ハイホット、サンストック、サンマックス  |
|         | ハウス用                              | ヘイズ値はトンネル用>ハウス用                                 | 無加温ハウス、果樹用                           | ハウスホット、サンクリア、ハイホット、サンストック  |
| 作業性改良農ビ | 内張り用                              | べたつきを改良。防曇性を強化したもの。                             | ハウス内カーテン用、固定内張り用、ハウス内トンネル用           | サンスリップ、ベタツカーズ、サラットらくらくスカイ8 |
|         | トンネル用                             | べたつき、開閉性を改良。両端梨地もある。                            | トンネル用、果菜等一般作物向け                      | トンネルエース、トンネルメイト、ベタレス       |
| その他の農ビ  | 遮光                                | アルミ粉末を混練りしたもの。シルバー・黒                            | 断熱（保温）、遮光、短日処理用                      | ウェーブブロックシルバー               |
|         | 糸入り                               | ポリエステル糸入り。透明・梨地、シルバー。耐候性あり。                     | ハウス側壁用、倉庫用など                         | ウェーブブロック、アミストロンDX          |
|         | 長期使用                              | 耐候性の改善。防塵性の改良。無滴性の持続を付与したもの。                    | 4～5年使用ハウス向け（紫外線除去に注意）                | シャインアップ                    |
|         | 特殊用途向け                            |   | サイロ用、タバコ乾燥用                          |                            |

表-2 農ポリの種類別特性

| 種 類           | 特 性   | 商 品 名  |
|---------------|---|--|
| 透明ポリエチレン      | 最も広く利用される。地温上昇による成育促進大。   | ・地温上昇効果<br>透明>緑>黒色<br>・穴あきマルチ<br>作物の種類、栽培様式により穴あけの条数、穴間隔、穴の大きさを決める<br>(有孔マルチ、各社規格あり) |
| 黒色ポリエチレン      | ポリエチレン樹脂に 2~3% のカーボンブラックを混入、雑草防除を主目的とする。地温上昇効果は透明ポリエチレンに劣る。   |  |
| グリーンフィルム      | 植物の光合成に必要な青色光・赤色光を除去し、雑草の発育を抑制する。地温上昇効果あり。  |  |
| アルミ粉末利用フィルム   | アルミ粉をフィルム製造中に混ぜ練り、あるいは薄層をポリフィルムで両側からサンドウイッチ状に接着したもの。断熱、遮光、反射効果あり。   | シルバーフィルム<br>シルバーマルチ  |
| アルミ蒸着フィルム     | アルミをフィルムに真空蒸着法により接着したもの。光反射大、地温上昇抑制大、果樹園マルチにも使われる。  | 太陽シート、ポリシャインなど   |
| シルバーストライプフィルム | ポリフィルム(透明・黒)に銀色の条線を一定間隔に入れたフィルム。アブラムシの回避・モザイク病の防除。  | ムシコン(ワイド、セミワイド、ストライプ等、銀色条線の幅、条数が異なる)   |
| 白黒ダブルマルチ      | 表面乳白色、裏面黒色の二重構造、地温上昇抑制、雑草防除効果をねらう。  | 白黒ダブル、ひえひえ、ネオバンダマルチ、サンシャットホワイト   |
| 銀黒ダブルマルチ      | 表面銀色、裏面黒色の二重構造、地温上昇抑制、雑草防除をねらう。   | 銀黒マルチ、ネオ銀黒マルチ、ミラネスク、ツインマルチ   |
| 特殊マルチ         | ポリ樹脂に石灰を増量した崩壊マルチ。フィルム中央部に一定の幅で細かい切れ目を 15mm 間隔に帯状につけ、種子をまいた後、被覆したフィルムから出芽するように考案したもの。チューブ状折径フィルムに水を注入した水封マルチ。 | 光崩壊マルチ(サンブラック)<br>メデルシート、らくはぎマルチ<br>水封マルチ(各種)  |
| 耐候性マルチ        | フィルム製造時に紫外線吸収剤を混入したものあるいは LDPE に LLDPE をより多く配合したものなど。各社ノウハウあり。  | 強化マルチ、耐熱マルチ、耐候マルチ  |

新製品トピックス [ホクレン施設資材部]

ポリオレフィン系高保温性フィルム

クリンテートDX

この度、クリンテートの新しい品種として「クリンテートDX」が開発されました。

いままでのクリンテートの特色である耐久性、防塵性、流動性をそのまま維持しながらさらに「保温性」を高めたものです。

ハウス、トンネル等で保温性が必要な施設園芸資材として最適です。

特 長

1. 保温性にすぐれています。
2. 風や寒さに強く、破れにくいフィルムです。
3. 汚れにくく、光をいつまでもよく透します。
4. 流動性にすぐれています。
5. 耐久性にすぐれています。
6. 作業性にすぐれています。
7. 紫外線をよく透します。
8. 広幅フィルムを提供できます。
9. バンドレスハウスに適しています。

保温性の比較(輻射線吸収率)

|             |        |
|-------------|--------|
| クリンテートDX    | 73%    |
| 一般特殊ポリオレフィン | 63~68% |
| 一般農ビ        | 68~73% |



お知らせ

「あぐりぼーと」の 1 号から本号までは普及期間として、農協経由で無料でお届けしてきましたが、次号(平成 9 年 2 月発行)以降は直接購読方式となります。

購読ご希望の方は、別添の郵便振替用紙で直接お申込み下さい。(なお、農協によっては一括購読し皆様に配付する場合がありますのでご確認下さい。)

【次号の特集】「高品質作物・生産と流通」

●本誌に対するご意見、ご要望は下記まで  
 札幌中央局私書箱 167 号 ホクレン「あぐりぼーと」編集事務局

編集後記

今年の春~秋は低温・並雨・少照でした。融雪が遅れ、日照不足による日中の低温がいつまでも続きました。

夏から秋にかけては日本海側で日照があって、稲作は持ち直しましたが、太平洋・オホーツク海側では結局不順のままです。稲 101、麦 64 の作況指数はこれを示しています。また、今年から出し方が変わった天気予報にも振りまわされました。詳しくはなったのですが、よく当たったとはいえない様です。北海道農業は相変わらず天気に左右されています。これに負けない営農に役立つ技術情報をお届けするのも、本紙のつとめと思っています。本号の品種特集はその一つです。

次号では、高品質生産を新しい見方で特集します。ご期待下さい。